

1958年

●12月10日 共産主義者同盟(フント)創立大会

- (大会議長—坂田静朋・芳村三郎・医歯薬ビル・約四五名)
書記長—熊谷信雄(島 成郎)・姫岡玲治(青木昌彦)、佐久間元(片山迪夫)
坂田静朋(古賀康正)、(森田 実)、…《五名政治局》
- 「全学連」G～(小島 弘)、(小野寺正臣)、(志水速雄)、(松田武彦)、(香山健一—病欠)
「社学同」G～加藤明男(生田浩二—病欠)久慈二郎(富岡倍雄)、〇〇(香山正雄)、
鍋木 深(大瀬 振)、岸本健一(陶山健一)、杉田信夫(野矢テツ夫)、
岡田 新(清水丈夫)、(星野 中)、(中村光男)、森 茂(鈴木啓一)、
〇〇(篠原浩一郎)、長尾弘夫(小川 登)、北川 登(小野田猛史)、
〇〇(向井拓治)、(灰谷慶三)、(唐牛健太郎)
- 「早大」G～(片山迪夫)、芳村三郎(小泉修吉)、〇〇(西江孝之)、〇〇(加藤 昇)
「革共同」派～唐木恭二(星宮煥生)、鎌倉〇〇(塩川喜信)、〇〇(土屋源太郎)、
〇〇(鬼塚豊吉)、〇〇(芝沼榮至)、
- 「探究」派～田宮健児(本多延嘉)、山村 克(白井 朗)、青山 到(守田典彦)—37名判明

1959年

- 11月27日 共産主義者同盟大阪市大細胞—結成(武田信照、柳田健、清島靖典)
●11月28日 日本共産党同志社大細胞—解散声明
●12月3日 共産主義者同盟同志社大細胞—結成宣言
(佐藤浩一、仲尾宏、浅川清、高野澄、カベ新聞「小さな旗上げ」)
●12月3日 日本共産党京大細胞—解散声明
●12月5日 共産主義者同盟京大細胞—結成宣言(今泉正臣、北小路敏、小川 登、野口 修)
(「新しいサイは投げられた!」・『鉄鎖を砕け』創刊号)
●12月×日 共産主義者同盟関西地方委員会(議長—今泉正臣、書記長—小川 登)—形成

1960年

- 7月29-30日 共産同第五回大会(分派闘争の開始、分裂)

1961年

- 2月×日 共産同関西地方委員会大会(小川 登、今泉正臣、田坂 元等、革共同へ移行)
●7月8～11日 全学連第十七回全国大会(委員長—北小路敏)
- * 京都府学連執行委員会対案～「政治過程論」同大・山本勝也の提起
 - * 東京大学六自治会対案
 - * 古賀、木暮中執対案
 - * 斉藤、柴野、梶対案
 - * 全自連対案

マルクス主義学生同盟(マル学同)と反マル学同の対立、分裂

- 7月11日「社学同再建のアピール—学生運動の再建と革命運動の前進のため闘う学友は社学同に結集せよ！」(社学同京都大学支部、社学同同志社大学支部、東京大学社学同、東大教養部社学同、早稲田大学社学同、中央大学社学同)
- 7月20・21日京都府学連第十八回大会(委員長—浅田隆治・京都大学～関西社学同系の指導権確立)
- 10月4日労働者協会—設立・機関誌『烽火』創刊(「声明」・社学同京都府委員会気付)
- 10月16日『烽火』第2号(「主張・最近の経済の動きと我々の学習」)
- 12月10日『烽火』第3号(「主張反帝・社会主義の闘いにむけてあらゆる闘争を集約せよ！」)
- 12月23日『烽火』第4号(主張・春闘と戦闘的労働者)

1962年

- 1月×日電通労働運動研究会の結成(大阪中電・東京・神戸・四国・機関誌『電通労研』)
- 1月15日春闘をめぐる政治討論集会(京都)
 - (関西ブント、長崎社研、日本共産労働党、先駆編集委員、東京社学同)
- 1月23日『烽火』第5号(主張・春闘と学生運動)
- 2月14日『烽火』第6号(主張・春闘討論集会の総括と我々の立脚点の再評価)
- 3月1日『烽火』第7号
- 4月20日『烽火』第8・9合併号(「革命的政治闘争とは何か」)
- 6月×日(関西)共産主義者同盟の結成総会—(議長・飛鳥浩次郎)
- 6月5日『共産主義』第10号(『烽火』改題・「主張・関西ブントに結集せよ！」(関西共産主義者同盟))
- 6月×日大阪市大 全学自治会—結成(社学同の指導部確立・委員長—藤本昌昭)
- 7月7・8日京都府学連第十九回大会(委員長—清田祐一郎)全学連大会に全ての潮流参加決議
- 7月10日『共産主義』第11号(「主張・全学連再建大会を成功させ、来るべき大闘争にそなえよ」)
- 9月15日『共産主義』第12号(「主張・1962年度下半期の闘争に向けて」)
- 9月30日関西ブント細胞代表者会議(「…討議資料」)
- 11月15日(関西)共産主義者同盟機関紙「烽火」創刊号
- 11月27日『共産主義』第13号(「主張・同盟大会をむかえる我々の課題」)
- 12月2日(関西)(共産主義者同盟同盟員総会
 - ・当面する情勢と同盟の現時点での立脚点(飛鳥浩次郎)
 - ・情勢分析・日本資本主義の現段階(佐々木和雄)
 - ・左翼諸潮流の動向およびその中でのニューレフト(園田 浩)
 - ・我々の思想とは何か・共産主義者同盟の思想と我が同盟の思想的基準(田原 芳)

1963年

- 3月1日『共産主義』第14号(「特集・中ソ論争とわれわれの立場」)
- 3月15日機関紙「烽火」8号「唐牛・東原問題に関する我々の見解」関西共産同政治局
- 6月10日『共産主義』15号(「特集・情勢の展開とわれわれの闘争」)
- 6月25日大阪市大 原潜寄湾阻止全国統一行動に全学スト
- 7月6・7日大阪府学連第二十六回大会—構造改革派指導権の確立
- 8月×日平和と社会主義をめざす学生同盟—結成(平社学同・機関紙「現代革命」・大阪市大)
- 9月4・5日京都府学連第二十回大会(委員長—高瀬泰司・京都大学～社学同の指導権確立)

- 9月15日民主主義学生同盟(民学同)―結成大会・機関紙「民主主義の旗」・大阪大グループ
- 9月22日社会学同関西同盟員総会(京都、大阪、名古屋、岡山、和歌山、四国)
- 10月1日『戦士』創刊(「主張・10・31 闘争に結集せよ」社会学同関西地方委員会)
- 11月6日ロシア革命記念労働者集会(大手前会館・主催・労働者協会、後援・関西共産主義者同盟)
 - ・レーニン・トロツキーの現代的意義(飛鳥浩次郎・同盟議長)
 - ・憲法改悪と労働者階級(三谷 進・政治局)
 - ・中ソ論争と十月革命(園田 浩・政治局)
 - ・闘いの報告(大崎 悟・電通労研)
- 11月29日 大阪市大教養、学費値上げ反対でスト

1964年

- 1月15日春闘討論集会―開催(主催・関西共産同・全国共産主義労働者協議会の提起・京都)
 - (関西共産同、東京電通労研、社会主義青年運動、長崎社研、広機社研)
 - 長崎社研(西村卓也)・東京電通労研(松本礼二・桜井優貴雄)
 - ・社会主義青年運動(千葉正健・新井忠雄)・・参加
- 2月×日『戦士』第2・3合併号(「主張・学生運動の新たな波と我々の任務」)
- 3月3日『戦士』第4号(「主張・日韓会議阻止闘争を戦い抜け!・・・」)
- 4月×日関西労働者学園―開設(京都、大阪、神戸・学長―藤本進治、事務局長―坂上孝→滝田修→岡崎幹郎)
- 6月15日労働者学生政治討論集会
 - (大阪府立労働会館 共催・(関西)共産主義者同盟・社会主義青年運動)
 - 基調報告①春闘から何を学ぶか ②憲法改悪と労働者階級
- 8月2日日韓・改憲阻止・反戦全国労働者学生集会(大手前国民会館)開催・二千名
 - (関西)共産同、共産同ML派、共産同マル戦派、革共同中核派、
 - 革共同革マル派、第四インター、長崎社研、電通労研、他
- 8月2日『共産主義』第16号(終刊「8・2全国戦闘的労働者学生集会と新左翼の方向」)
- 8月×日『戦士』第5号(「『第三の転換点』と我々の課題」)
- 9月6日(関西)共産主義者同盟中央委員会
 - ・経過報告(三谷 進)
 - ・中央委員会議長挨拶(飛鳥浩次郎)
 - ・一般報告(飛鳥浩次郎)
 - ・規約の改正と体制に関する報告
 - ・労働戦線に対する同盟の組織路線
 - ・学生戦線に対する同盟の方針
- 10月×日全電通(藤野興一・福富 健・大塚 彰・芹生琢也)。私鉄総連(田中正治)、
 - 国労(大森昌也)、繊維労連(堀 清明)他、関西ブント同盟員の配置拡大
- 11月27日 大阪市大、学費値上げに反対して授業放棄、府庁と団交、連日千名規模で学内集会開催

1965年

- 1月20日『全世界を獲得するために・共産主義者同盟文献集1』(大阪大学新聞会出版部)
- 3月21日関西労組活動者会議

- 4月×日『戦士』第6号終刊(主張・全世界の労働者人民の闘いで、
国際帝国主義の一切の軍事植民地主義を粉碎せよ！)
- 5月8日『新左翼運動資料集NO1』一発行(社学同関西地方委員会・関西共産同)
- 6月15日「烽火」45号終刊(「共産主義者同盟『統一委員会』発足にあたって」)
- 6月15日ベトナム阻止・日韓会談反対・安保五周年記念集会(大阪府立職員会館)
共催—安保五周年記念集会実行委員会・共産主義者同盟
- 6月×日大阪市大自治会選挙—民学同派勝利(社学同敗北)
- 6月×日共産主義者同盟(統一委員会)結成大会(機関誌「共産主義」「先駆」—先駆社)
議長—松本礼二、副議長—飛鳥浩治郎、書記長—松村三郎、
政治局(常任)—佐々木和雄(瀧美文夫)、杉山明夫(古賀 暹)、
一向 健(塩見孝也)、坂部 潤(八木健彦)、芦川達郎(黒岩卓夫)
明智秀胤(千葉正健)、正木真一(石井瑛禧)、(桜井優貴男)、
在関西—佐伯 武(佐野茂樹)、大崎 悟(前田裕暗)
八木沢二郎(新開純也)、榎原 均(竹内 毅)、田原 芳(中島鎮夫)
永井武夫(清田裕一郎)、在東京—さらぎ徳二(右田昌人)、
光岡〇〇(荘田一雄)、花島雄三(川口宣久)→斯波寛志(高橋茂夫)
関西共産同・共産同・「独立社学同」(古賀 暹、三上 治～明大、中央大、東大)
電通労研(松本礼二)、社会主義青年運動SM(千葉正健・さらぎ徳二)
- 7月31日社学同再建全国大会(社学同全国委員会、委員長—高橋茂夫・副委員長—塩見孝也・高原浩之
書記長—斎藤克彦～社学同統一派と社学同関西地方委員会の統合・機関紙「赤光」)
- 8月1日『共産主義』復刊準備号(「共産主義」編集委員会・レポルション社
「討論の呼びかけ—共産主義者同盟の再建に向けて」)
- 8月5日「先駆」創刊号—発行(機関紙「赤旗(セッキ)」と「烽火」の合併～66年9月25日・33号終刊)
- 8月8日ベトナム侵略反対・日韓条約批准阻止関西労働者学生集会(京都)
- 9月2日ベトナム戦争反対・日韓条約批准阻止大阪実行委員会(ベトナム反戦大阪実行委員会)—結成
総評大阪地評、社会党大阪府連、電機労連、府学連、社革新、統社同等十四団体)
- 9月9日ベトナム戦争反対・日韓条約批准阻止のための全大阪反戦青年委員会(議長—岡田義雄)
(全大阪反戦青年委員会)—結成・(機関紙「大阪反戦ニュース」
議長—岡田義雄、事務局長—鍵山伊佐雄、全大阪反戦・社青同、総評地評青年部等)
- 11月9～13日 大阪市大全学、北大教養・広島大教養、日韓条約批准反対でスト
- 12月1日『共産主義』復刊1号(「共産主義」編集委員会・先駆社)
「革命的労働者学生は同盟に結集せよ！第一回中央委員会議案抄録」

1966年

- 3月21日社学同研究合宿(共産同統一委員会系)
- 5月×日先駆シリーズ第1号『われらの対立 共産主義者同盟と日本共産党』(佐々木和雄)
- 5月4日共産同統一委員会第二回大会(議長—松本礼二、副議長—飛鳥浩次郎、書記長—松村三郎)
総括報告提案—正木真一
国際情勢報告提案—飛鳥浩次郎

国内情勢報告提案—仏 徳二
国内階級情勢報告提案—佐々木和雄
一般任務方針提案—松村三郎
組織方針提案—芦川達明
ブント(黎明)との合同問題に関する特別報告提案—杉山明夫
大会まとめ、結語—松本礼二

「同盟は、共産主義者同盟の全国的確立、大ブント構想の一環としてマルクス主義戦線派との統一を推進する」

●5月13日大阪市大で三名の私服自衛官を発見、学生の追及で学内無断入り謝罪・学内での自衛隊職務を行なわない等の謝罪文を書かせる(14日全学抗議集会)

●6月9日『先駆シリーズ(2)世界革命の旗の下、日本社会主義革命へ前進しよう』
(共産同統一委員会第2回大会報告決定集・先駆社)

●6月15日『烽火』復刊1号(共産同統一委員会関西地方委員会)

●6月15日「プロレタリア日本革命の勝利をめざし新たな革命的指導部を建設するために—
共産主義者同盟統一再建に関する声明」(杉村宗一・松本礼二)

●6月19日統一共産同盟—結成(平社学同の改組・機関誌紙『評議会革命』『現代革命』)

●7月30日『プロレタリア独裁への道< I >』(共産同関西地方委員会・田原 芳)—発行

●9月1日「黎明」・5日「先駆」

「日本階級闘争の前衛部隊=共産主義者同盟を先頭に前進を開始せよ！」
(共産同統一再建準備委員会)

* 赤崎次郎(山崎衛)、* 秋本道夫(望月彰)、泉 清二(石田寿一)
河合一郎(山崎順一)、北田 肇(吉川駿)、杉村宗一(矢沢国光)
藤井竹明(成島道官)、水沢史郎(服部信司)、* 仏 徳二(右田昌人)
垂水俊介(中井正美)、松本礼二(高橋良彦)、正木真一(石井暎禧)
* 飛鳥浩次郎(佐藤浩一)、佐伯 武(佐野茂樹)、松村三郎(浦野正彦)

●9月1日共産主義者同盟再建第六回大会(書記局通達「プロレタリア通信」)

議長—松本礼二、副議長—飛鳥浩次郎、書記局=書記長—水沢史郎、
書記次長—松村三郎、中央委員—佐々木和雄、北田 肇、高橋道郎
秋本道夫(労対次長)、杉村宗一(「戦旗」編集長)、赤崎次郎(労対部長)、
仏 徳二、正木真一、芦川達明、一向 健(学対部長)、藤井竹明(次長)、
奥見 克(齊藤克彦)、他12名・

「大会報告」執筆、I・水沢史郎、II~V・不明

●9月14日全都学生討論集会(明治大・社学同統一再建実行委員会)

(社学同マル戦派と統一派の合同~12月全学連再建を決議・機関紙「赤光」)

●9月25日「先駆」第33号終刊

●10月5日「戦旗」第76号(第六回大会報告)より再刊(「黎明」第75号より継続)

●10月8日『共産主義』第8号(第六回大会報告)

●10月8・9日全学連再建準備会結成大会(明治大学記念館)~12月全学連再建決議

- 12月15日佐藤内閣打倒！労働者学生集会(東京・全電通会館)
 - ・挨拶(松本礼二)
 - ・反帝闘争をプロレタリア日本革命へ(水沢史郎)
 - ・流動する政治情勢と日本階級闘争(飛鳥浩次郎)
 - ・10-21 闘争と来春闘(赤崎次郎)
 - ・再建全学連の任務は何か(一向 健)
- 12月17～19日全学連再建全国大会(「三派全学連」～大田区民会館・明治大学記念館)
 - 委員長—斎藤克彦(明大)、副委員長—蒲池裕治(同大)、
 - 同—高橋幸吉(早大・解放派)、書記長—秋山勝行(横国大・中核派)
- 12月15日『共産主義』第9号(「流動する政治情勢と日本階級闘争」政治局)

1967年

- 2月2日明大学費闘争の敗北～「二・二協定」調印～大混乱
- 2月24日共産主義者同盟京大細胞—結成(機関紙「鉄鎖を砕け」復刊NO1)
- 3月19日全関西ベトナム反戦関西討論集会(中ノ島中央公会堂・大阪軍縮協他)
- 4月×日『戦士』臨時号
- 5月14日阪神地区共産主義者協議会—結成(代表—長井一男・事務局長—清田祐一郎)
 - (機関誌『斗いの旗』—杉田昭典・師岡佑行・後藤正彦・中谷聖征・松上辰之)
- 5月15日『烽火』号外(共産同関西地方委員会「労働運動の転換とわれわれの組織」)
- 5月24日パンフ『文化大革命と世界革命』(社学同京大支部・石川 明＝上野勝輝)
- 6月10日『共産主義』第10号(「砂川・小選挙区と七〇年安保への闘い」政治局)
- 6月×日『烽火』第2号(「プロレタリア独裁への道—我が同盟の緊急の任務について」)
- 8月×日『烽火』第3号(「主張・日本帝国主義と70年安保」)
- 9月25日『烽火』第4号(「活動の新しい段階と我々の組織」)
- 10月8日佐藤訪ベトナム阻止第一次羽田闘争
 - (午前八時、社学同・社青同解放派700名、高速道路・鈴ヶ森ランプ付近で機動隊の阻止線を実力突破。後、京大生山崎博昭君虐殺される。計75名逮捕)
 - 「…日本人民は『剣闘士と野獣の闘いを観覧するローマ市民』から、はじめて血と命をかけた諸国の人民と同資格を得た。国際的闘いは今や一つに固く結びつけられる基礎を獲得した。…学生諸君、よくやった。諸君の英雄的、自己犠牲的闘いは、日本だけでなく、世界の労働者と左派を勇気づけている」(『烽火』5号)
- 11月3日『烽火』第5号(「佐藤訪ベトナム訪米実力阻止闘争に対する
共産主義者同盟関西地方委員会の基本態度」)
- 11月12日第二次羽田闘争(347名逮捕)
- 12月7日羽田・ベトナム・安保共産同大講演集会(東京・品川公会堂)
 - ・70年安保に向けて(飛鳥浩次郎)
 - ・砂川とベトナム(水沢史郎)
- 12月7日『羽田闘争 10-8→11-12と共産主義者同盟』(戦旗社)
- 12月7日『烽火』第6号(11-12 第二次羽田闘争特集「現代帝国主義と70年安保(3)」)

●12月24日関西地区反戦連絡会議の結成

(議長・前田裕昭 → 和田千声 → 土方克彦、事務局長—清田裕一郎)

(大阪)北大阪反戦青年委員会、堺反戦青年委員会、吹田反戦青年委員会

高槻反戦青年委員会、

(兵庫)尼崎反戦青年委員会、西宮反戦青年委員会

(京都)洛北反戦青年委員会、落西反戦青年委員会、洛南反戦青年委員会

(和歌山)和歌山反戦青年委員会

1968年

●1月17～19日原子力空母エンタープライズ寄港阻止闘争(佐世保)全学連(三派)1000名

前段・15日のアメリカ神戸領事館抗議闘争では、学生部隊を無傷で

出発させるため、大塚彰(電通)等、関西地区反戦の労働者達は最先頭で座り込み

大弾圧を一手に引き受ける。(労働者10名、学生2名逮捕)

●1月31日『烽火』第7号(「日本労働者階級に対する共産主義者同盟の任務」)

●2月19日『労働者もヘルメットをかぶった・佐世保7日間の戦いの記録』(関西地区反戦連絡会議)

●2月29日『烽火』第8号(「主張・同盟第七回大会と我々の課題」)

●3月×日共産同関西地方委員会大会

●3月7日70年安保粉碎・野戦・三里塚阻止!関西政治集会(大阪市立労働会館)

講演～・共産同関西地方委員会議長・田原 芳

・関西地区反戦連絡会議事務局長・清田祐一郎

・全学連副委員長・蒲池裕治

●3月24・25日共産主義者同盟第七回大会(両国公会堂)世界同時革命を定式化～

議長—佐伯 武、副議長・書記長—(空席)、佐々木和雄、松本礼二、さらぎ徳二、

松村三郎、一向 健、旭凡太郎、垂水俊介、杉田正夫(斎藤芳雄)—合計九名

「戦旗」編集局・野田 晋(岡野英夫)。大会二日目、旧マル戦派欠席

「大会報告」執筆、総括(一～四章)佐々木和雄、情勢(一～三章)仏 徳二、

任務(一～五章)佐伯 武

●3月25日民学同第9回大会(共労党派の分裂)

●3月27日社学同全国大会(中大・マル戦派ポイコット—委員長—村田能則)

●5月21日『烽火』第9号(「主張・再び『同盟第七回大会と我々の任務』」)

●6月1日『共産主義』第11号(第七回大会報告)

●6月15日『烽火』第10号(「主張・社会主義と我々の態度」)

●6月15日ベトナム反戦全国行動大阪集会(御堂筋デモ～ゲバ棒武装、ベトナム反戦大阪行動実行委員会)

●6月16日70年安保粉碎!共産同関西政治集会(大手前国民会館、基調—田原 芳)

●7月13日大阪府学連再建大会(桃山大～委員長—西浦隆男・大阪市大、書記長—藤岡弘・大阪経済大)

●7月17日社学同第八回全国大会(中央大、委員長—久保井拓三)

●7月21・22日全学連第十九回全国大会(社学同系・中大会館)

〈委員長—藤本敏夫(同志社大)・副委員長—久保井拓三(中大)・書記次長—村田恒有(東京医科歯科大)

●7月×日福富健(共産同)大阪総評青年部副部長—就任。

- 7月10日『理論戦線』6号(復刊1号)―(社学同全国委員会)
- 8月4日国際反戦関西集会の開催(大阪厚生年金会館千名)
 - (日本共産党解放戦線、共産同関西地方委員会、社青同国際主義派、第四インター日本支部、社青同解放派、毛沢東思想学院、社学同ML派、関西地区反戦連絡会議、電通労働運動研究会、ベトナム反戦行動委員会等々)
- 9月10日NATO・安保粉砕！関西政治集会(大阪市立労働会館)
 - 「チェコをめぐる情勢と世界革命」共産主義者同盟関西地方委員会議長・野崎 進
- 9月10日『チェコをめぐる情勢と世界革命』(共産同関西地方委員会・高見沢洋一)
- 9月30日『烽火』第11号終刊(「主張・『世界同時革命』とは何か?」)
- 10月31日『理論戦線』第7号(SSL全国委理論合宿報告)
- 11月×日『叛旗』(共産主義者同盟三多摩地区委員会)創刊号
- 11月30日70年安保粉砕・一月訪米阻止全関西政治集会(中小企業文化会館)
 - 講演―松本礼二、基調―野崎 進(関西地方委員会議長)
- 12月1日『共産主義』第12号(「日帝打倒・安保粉砕と当面する情勢 第四回中央委員会報告」)
- 12月×日共産主義者同盟第八回大会(読売ランド)
 - 議長―さらぎ徳二、副議長―佐伯 武(軍事委員長)、書記長―(佐々木和雄・獄中)、
 - 松本礼二(国際部)、田原 芳(労働運動対策部)、松村三郎(弾圧対策部)、
 - 田宮高慶(共青同委員長)、日向 翔(社学同委員長)、一向 健(東京都委員会)
 - 藤本敏夫(全学連)
 - (綱領委員会・委員長―田原 芳、さらぎ徳二、日向 翔、三上 治、一向 健)

1969年

- 1月17日全国労働運動左翼活動者会議(主催―電通労研・長崎社研・大阪)
 - 松本礼二・榎原 均(共産同)、陶山健一(革共同中核派)、
 - 今野 求(第四インター)。樋口篤三・いいだもも(共労党)、
 - 荒川 亘(社労同)、高田 麦(統社同)、菊水 望(阪神共産主義者協議会)
- 1月18・19日東大安田講堂攻防戦・神田カルチャータン闘争。
 - 全国学園闘争激化(東京工大無期限スト、横国大無期限スト、京大教養部スト
 - 大教大養部無期限スト)
- 1月×日『国際階級闘争資料集』NO1(共産主義者同盟国際部)
- 2月11日『東大闘争―その意味するもの―』(共産主義者同盟千葉県委員会)
- 2月×日東大・日大全共闘報告集会の開催(京都、大阪、神戸)
 - 関西地区反戦の挨拶「今度は学生諸君を工場のバリケードの中に案内するであらう」「いくつかの官公労拠点で労働者の安田講堂攻防の実現を」
- 2月22日『労働運動の現段階とわれわれの任務』(共産主義者同盟・榎原 均)―発行
- 3月0日大阪市大本館(時計台)バリケード封鎖
- 3月6日(西大阪)総評化学同盟塩水港精糖労組事務所に機動隊の導入。
 - 森安弘之ほか労働者二十七名逮捕。
- 3月25日「四・二八を突破口として、七〇年へ戦列を強化せよ！」(五派共同宣言)

革命的共産主義者同盟・共産主義者同盟・社会主義労働者同盟・

日本革命的共産主義者同盟(第四インターナショナル日本支部)・日本マルクス・レーニン主義者同盟

●3月25・26日社会主義学生同盟全国大会(同志社大学)

●3月25日『理論戦線』第8号(社会学全国委員会全国大会報告集)

●3月27・28日全学連臨時第二十回臨時大会開催(社会学系・同志社大)

〈委員長—藤本敏夫(同志社大)・委員長代行—久保井拓三(中大)・書記長—石橋興一(早大)

・書記次長—米田隆介(明治大)講演・藤本進治、廣松 渉)

●3月29日プロレタリア学生同盟—結成(大阪市大民学同左派・共労党系)

●3月×日共産主義青年同盟(キム)—結成大会(常任委員長—田宮高麿、機関誌『キム』)

●4月14日「統一」320号「プロレタリア学生同盟結成宣言」

●4月15日共産主義者同盟政治集会(東京・九段会館)

・司会 (一向 健、日向 翔)

・基調・共産同議長 さらぎ徳二

・三多摩地区反戦 三上 治

・共産主義青年同盟 田宮高麿

・国際部長 松本礼二

●4月21日「共同声明」—革命的共産主義者同盟・共産主義者同盟・日本マルクス・レーニン主義者同盟

日本革命的共産主義者同盟(第四インターナショナル日本支部)・社会主義労働者同盟

・共産主義労働者党・統一社会主義同盟・全学連・反戦青年委員会・沖縄闘争学生委員会

・三里塚反対同盟・砂川基地反対同盟・マルクス主義学生同盟中核派・社会主義学生同盟

・全国学生解放戦線・全国反帝学生評議会・国際主義共産学生同盟・共産主義学生同盟・

プロレタリア学生同盟・社会主義学生戦線フロント・東京大学全学共闘会議・

教育大学全学闘争委員会・中央大学中央闘争委員会・日本大学全学共闘会議・他27団体。

●4月26日七〇年安保粉碎・沖縄闘争勝利全関西労学争決起集会

(円山公園・関西地区反戦、京都反戦、京都府学連)

●4月28日『キム』第1号(共産主義青年同盟中央常任委員会)—刊行

●5月3日『共産主義者同盟の総括と綱領問題』(共産同綱領委員会・田原 芳)

●5月12日4・28 闘争報告、愛知訪米—ASPAC東京会議阻止！全関西労学政治集会

(中之島公会堂、基調—永井武夫)

●5月×日『4・28 沖縄安保粉碎・中央権力闘争』(共産主義青年同盟)—発行

●5月20日『世界暴力革命論』(さらぎ徳二・リベラシオン社)

●5月22日『4・28 安保・沖縄闘争』(共産主義者同盟)—発行

●5月×日共産同第八回大会第三回中央委員会(権力の介入のため中断)

●5月×日『現代革命 I』(「革命的高揚から革命情勢の幾つかの問題」)—発行

●6月13日安保粉碎！日帝打倒＝プロレタリア独裁樹立共産同大政治集会(杉並公会堂・基調—佐伯 武)

●6月15日反戦・反安保・沖縄闘争勝利関西総決起集会(大手前公園)

(全大阪反戦青年委、京都反戦青年委、関西ベ平連、京大、同志社大・8千名)

●6月×日共産同—「ボルシェビキ・レーニン主義派(BL派)」フラクション形成

(書記局・機関紙編集局・佐々木和雄)

- 7月2日「プロレタリア通信」(7月6日全都合同会議、反同盟解体分子「赤軍派」批判)
- 7月4日 共産同関西政治集会(中之島公会堂大講堂、基調—永井武夫)
「火花」7号—「世界プロ独・世界党—世界赤軍—綱領問題」提起
- 7月6日 共産同全都合同会議(明治大和泉学舎)
「7・6事件」赤軍派、仏議長をリンチ・後逮捕—9月29日望月上史(同志社大)死亡
- 7月23日 社会主義学生同盟全国大会(明大・350名—同盟内の意見の相違を公開討論に入り克服決定)
- 8月22日 共産主義者同盟第九回大会(明大生田学舎—赤軍派13名除名)
議長—さらぎ徳二、副議長—松本礼二、
書記局=書記長—佐々木和雄、松村三郎(浦野正彦)、野田 晋(岡野英夫)、
榎原 均(竹内 毅)、垂水俊介(中井正美)、羽山太郎(佐藤秋雄)、(高幣真公)、
鈴木路彦(山下浩志)、〇〇〇〇(前田〇〇)、斯波寛志(高橋茂夫)
永井武夫(清田裕一郎)、一条信治(池亀 信)・・十二名
日向 翔(荒 岱介)、三谷 進(浅田隆治)、野崎 進(柳田 健)、
高見沢洋一(坂井與直)、竹野 巖(田中正治)、稻沢 徹(茂田一義)、
杉田正夫(斎藤芳雄)、(久保井拓三)、高寺良一(伊藤文昭)、
(岩崎司郎)、三上 治、神津 陽(薬師寺忠昭)、中島二郎(米山〇〇)
・・他三四名(中央委員会)
「大会報告」執筆 I・松村三郎、II・佐々木和雄、III・榎原 均、IV(一)野田 晋、
IV(二)高見沢洋一、V(一)鈴木路彦、V(二)高幣真公、VI・佐々木和雄
「共産主義者同盟第9回大会への意見書」(杉田正夫・垂水俊介・羽山太郎)
- 8月28日 共産同赤軍派—結成総会(議長—塩見孝也、政治局—八木健彦、田宮高廣、
堂山道生、高原浩之、上野勝輝、花園紀男)
- 9月×日『赤軍』NO1(共産主義者同盟赤軍派機関誌「我々の立脚すべき地点」)
- 9月×日『先行性ファシズム論』(さらぎ徳二・リベラシオン社)
- 9月〇日大阪市大—赤軍派・全共闘・医共闘問題で強制捜査。封鎖、全学に拡大。
医学部・病院、機動隊により封鎖解除。
- 9月15日 大阪電通労研総会(中電マッセンスト方針決定 中電労研反対、脱退・16日前田裕昭、共産同離党)
- 10月1日『共産主義』第13号(第九回大会報告)
- 10月4日 大阪市大本館(時計台)決戦(封鎖解除)
- 10月7日 共産同政治集会(北区公会堂、基調—野崎 進)
「佐藤訪米実力阻止・安保決戦を日帝打倒・世界革命戦争へ」
- 10月×日 共産同「BL派フラクション」の分解(10・21 闘争の戦術—「理論戦線」派の分岐)
- 10月21日 国際反戦デー(新宿、高田馬場、大阪-北大阪制圧)、全都千五百名逮捕
共産同・大阪中電マッセンスト(川村忠孝、大前弘志、佐渡正昭他)
- 11月16・17日 佐藤訪米阻止闘争(11月決戦)—品川、蒲田、池上2千名逮捕
(共産同—第二～第六軍団建設、「第四軍団」(「理論戦線」派)と「第五軍団」—BL派の分裂)
- 12月9日『革命の軍隊・党の革命 10・11月闘争の運動=組織論的総括』(共産主義者同盟)—発行

●12月12日共産同大政治集会(荒川公会堂、基調—佐々木和雄)

●12月15日全関西労学総決起集会(中之島公会堂・共産同関西地方委員会)

「安保粉碎と内戦の70年代」(永井武夫)